
文化經濟国際課



文化経済・国際課 主な予算（案）

文化経済戦略推進事業

29百万円（前年度予算額 29百万円）

「文化経済戦略」で掲げられた「文化と経済の好循環」実現に向け、文化・芸術界と経済界との対話の場を新たに設定し、両者の総合的・戦略的な対話チャンネルを構築する。あわせて、これらのチャンネルを活用し、民間企業のリソースを活用しながら、文化資源を生かした経済的価値の創出のためのネットワークラボを形成する。

我が国におけるアート・エコシステムの形成

192百万円（前年度予算額 192百万円）

我が国におけるアート振興のための基盤の整備と日本作家及び現代日本アートの国際的な評価を高めていく活動を展開し、世界のアート市場規模に比して小規模にとどまっている我が国アート市場の活性化と我が国アートの持続的発展を可能とするシステムの形成を目指す。

<国際文化交流室>

芸術家・文化人等による日本文化発信・相互交流事業

68百万円（前年度予算額 68百万円）

○ 日本文化発信事業（文化交流使）

日本の第一線で活躍する芸術家、文化人等を「文化交流使」に指名。交流使は複数の国に一定期間滞在し、公演・講義・デモンストレーション等を行い、日本の多様な文化芸術を世界に発信する。

○ 芸術家・文化人等の相互交流事業

諸外国の文化政策を担当する行政官及び海外で活躍する外国人芸術家・文化財専門家を招へいし、我が国関係者とのネットワーク強化を図り、将来に向けた海外展、共同展覧会開催のきっかけづくりなど、長期的な日本文化発信の土壌形成を目指す。

国際文化交流・協力推進事業

242百万円（前年度予算額 242百万円）

首脳間や政府間で設定される周年事業など、国際的な要請や文化政策上の意義に基づき、公演・展示事業などの国際文化交流・協力の重要案件に係る事業を実施する。

東アジア文化都市

経緯

2012年の第4回日中韓文化大臣会合での合意に基づき開始。

内容

3か国から選定された都市が、都市間交流を含む文化芸術事業を集中的に実施。

活動例

オープニング/クロージングイベント、国際芸術フェスティバル、書道交流、青少年交流等。

効果

- ・東アジア域内の相互理解・連帯感の形成の促進
- ・東アジアの多様な文化の国際発信力の強化
- ・都市の文化芸術・クリエイティブ産業・観光振興と継続的な発展

<日本側都市の事業実施状況>

| 新潟市(2015年) | 奈良市(2016年) | 京都市(2017年) | 金沢市(2018年) | 豊島区(2019年) |
|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| ✓ 期間中に295事業を実施 ✓ 来場者は約357万人 | ✓ 期間中に112事業を実施 ✓ 来場者は約127万人 | ✓ 期間中に129事業を実施 ✓ 来場者は約50万人 | ✓ 期間中に172事業を実施 ✓ 来場者は約92万人 | ✓ 期間中に397事業を実施 ✓ 来場者は約353万人 |



◎2021年選定都市の概況

| | 北九州市 | 紹興市(中国) | 順天市(韓国) |
|----|---------------------|------------------------|---------------------|
| 人口 | 約95万人 | 約447万人 | 約28万人 |
| 面積 | 約492km ² | 約8,273km ² | 約907km ² |
| | | 敦煌市(中国) | |
| | | 約20万人 | |
| | | 約31,200km ² | |

取組事業の内容

「東アジア文化都市」に選定された都市においては、様々な文化芸術関連事業を実施することになるが、基本的に内容は選定された都市において自由に企画可能。(既存の文化イベントや青少年交流事業等の活用でも可。)

ただし、下記事業については、必ず実施する。

- ① 開会イベント ※文化庁一部経費負担
- ② 文化芸術関連イベントを集中的に実施するコア期間 (核となる期間・1か月程度を想定) の設定
- ③ 中国、韓国で選定された「東アジア文化都市」との交流 (芸術団体等の派遣・招へい) ※文化庁経費一部負担
- ④ 閉会イベント

今までの対応例

① 2019年2月1日開幕式典 (2019豊島)



② 2018年10月11～11月25日 金沢21世紀工芸祭 (2018金沢)



③ 2017年8月5～9日青少年交流事業 (2017京都)

3都市でそれぞれ20名程度、芸術分野を専攻する高校生が京都に集い交流

③ 2016年5月3～5日平城京天平祭 (2016奈良)

中韓の伝統芸能団を招聘
寧波市：梅山獅子舞
濟州特別自治道：伝統仮面踊 (ほか)

④ 2018年12月5日閉幕式典 (2018金沢)

於：金沢市文化ホール

●2014年7月19日～10月7日開催
「ヨコハマ砂の彫刻展」(横浜市)



●2016年9月3日～10月23日開催
「古都祝奈良(ことほぐなら)
～時空を超えたアートの祭典」(奈良市)



●2018年9月15～11月4日開催
まちなか展覧会「変容する家」(金沢市)



●2015年7月27～30日開催
「青少年交流 in 新潟」(新潟市)



●2017年8月19～10月15日開催
「アジア回廊 -Asia Corridor」
(京都市)



Photo by Takuya Matsumi

●2019年2月1～11日開催
「区庁舎がマンガ・アニメの城になる」(豊島区)



事業実施による効果①

① 経済波及効果

- 2016年：奈良市 (奈良市事業報告書(報道発表資料)より)
総消費額(来場者が消費した額)：約90億円
※算出方法：連携事業も含めた「東アジア文化都市2016 奈良市」の各事業への来場者数をもとに、事業への実来場者数に一人当たり平均観光消費額を乗じて算出。
- 2017年：京都市 (京都市発表資料より)
約55億8千万円(直接効果：約39億4千万円、間接効果：約16億4千万円)
- 2018年：金沢市 (金沢市より聴取)
約91億(直接効果：約65億6千万円、間接効果：約25億4千万円)

② 来場者数等

- 2016年：奈良市
来場者目標=約60万人 → 実績=主催・共催事業：55事業 76万人
連携事業を含む総数 93事業 127万人
- 2017年：京都市
実績=主催・共催事業：129事業 50万5千人
- 2018年：金沢市
実績=主催・共催事業：172事業 92万人
金沢21世紀美術館の入場者数が258万591人で過去最多。
(※これまでの過去最多の年間入館者数は2016年度の255万4157人。)
- 2019年：豊島区
実績=実施事業：397事業 来場者数：延べ353万人



③ その他効果

1. 日中韓の交流事業の継続

東アジア文化都市を終えた後も、行政による芸術団の派遣・招へいの他、民間レベルでの交流も継続して行われるようになっている。

(例) 横浜：中韓アーティストの横浜でのダンスイベント出演及び学校訪問や、中国泉州市の「東アジア文化都市・中日韓美術作品展」へのアーティスト派遣等。

新潟：青少年や芸能団の相互派遣を継続して実施。また、本事業を機に中国総領事館の「新潟春節祭」、韓国総領事館の「韓日ハンガウィ祭り」が開催されている。

奈良：3都市間での青少年交流事業（日中韓学生の書道交流等）について継続。

京都：大学生の相互派遣といった青少年交流や文化イベントへの文化芸術団体の相互派遣を継続して実施。



韓国芸術団の学校訪問（横浜市）

2. 都市の文化芸術活動の活性化

- ・地元の市民主体の芸術団体が中国・韓国に派遣されるなど、市民による文化の国際発信の活性化。
- ・東アジア文化都市のイベントをきっかけとした、開催都市の文化芸術の海外進出の促進
⇒例) イベントで出品した作品の海外での展示

3. 国際交流の進展

- ・「中国・韓国への興味関心が増加した」と回答した市民が多数

奈良市 53.5%（回答数：4,243人） 京都市 82.0%（回答数：4,323人）

豊島区：一都三県で「中国や韓国の文化への興味・関心の喚起に貢献した」と考える人は69%